

広島大学学術情報リポジトリ

Hiroshima University Institutional Repository

| | |
|------------|---|
| Title | 外来語、特にカタカナ英語 |
| Author(s) | ティモシー マイケル ブォス, |
| Citation | 日本語・日本文化研修プログラム研修レポート集, 1989 : 105 - 111 |
| Issue Date | 1990-03-15 |
| DOI | |
| Self DOI | |
| URL | https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00039269 |
| Right | |
| Relation | |



外来語、特にカタカナ英語

ティモシー・マイケル・ブォス

日本語の勉強のために一年間日本で留学した間に一番驚いたのは日本語の中に英語が多いことである。あるアメリカ人の日本語学者は近頃文藝春秋という有名な日本文学雑誌の一冊に出た英語から借用した言葉を数えてみたが七千語すなわち平均一頁に十五語以上となるところで教えるのを止めた。日本語の分からない言葉があったらその英語の相当語句を日本語の発音に当てはめてみたがその英語が理解されても相手は日本語の相当語句を知らない例もいくつがある。日本語の相当語句があっても英語が使われている場合が多くて英語を話す人には驚愕すべきことである。一方日本人が使う英語の単語の使い方はもとの意味と違うから英語なのに分からないことも多い。実例をあげてそういう英語を見てみよう。

日本語の歴史は初期に日本人が中国語を書いてみたことで強い影響を受けた。日本の知識階級は十九世紀まで真面目に中国語を勉強していて中国語すなわち古典の中国語を誦むことに熟達して書くことに熟練した人いた。日本の知識階級の古典の中国語の知識が多少あったのは日本語の口語と文語に強く影響した。その影響は特に語彙に強かった。中国語の単語が幾らも日本語の発音に当てはめて日本語の中に消化吸収して現在元の古典の中国語の語彙は日本語から分けることが出来ない。以後外国語の単語が日本語の中に入り込んできた。

ポルトガル語 - 1543年以後 スペイン語 - 1583年以後 オランダ語 -

1600年以後 ラテン語—1613年以後 フランス語、ドイツ語、イタリ
ア語、ロシア語—明治以後 アメリカ—1853年以後このことはヨーロ
ッパ諸国との貿易と科学の研究のためである。明治初年の文明開化時
に、未知の西洋の文物と一緒に、向うの言葉が一度流れ込んで来たの
は当然だが、一方で明治の先人たちは、日本語の訳語を造ることに
苦勞をした。たとえば、葉書、哲学、権利などは、今ではごくふりふ
れた言葉になっている。しかし、中には日本語として定着しなかった
訳語もあった。さらに、一度は市民権を獲得しながら、今日のカタカ
ナ語偏重の世相の故に、その座を追われかけている語もある。次の語
をまだ使っている人はないだろう。接吻 酒精 腸詰 牛酪 乾酪
甘藍 自鳴琴。

日本の敗戦と米軍による占領は、それまでせき止められていた外来語
を一挙に流入させることになったが戦後の国語審議会も、この傾向の
助長に一役買った。すなわち同会は当用漢字の指定によって、むずか
しい漢字を含む言葉の使用を制限するだけで、外来語の無制限な使用
に対しては何の歯止めも設けなかったため、不必要な場合にまで外来
語をふりまわす風潮を勢づけることになった。第二次世界大戦の後で
日本語を英語に取り替えようという声もあがった。それはちょっと
極端だけど外来語の無制限な使用を妨げないと日本語がなくなる恐れ
があると思っていた人もいた。そう思わない人もいる。横佩道彦は次
のように述べた。鳥製英語というと私たちに英語をつくりだす能力が
あるような錯覚にてらわれますが、これは日本語のなかで使われる
英語からの借用語のうち、英語での本来の使い方と違っていたり、

英語にそういう形のことばが存在しないものことです。日本語には漢字、ひらがな、カタカナの三種の表記法があって、とくに外来語にはよくカタカナを使います。だから、カタカナが原語のアルファベットと直結しているように考え、そのことばがもとの英語本来の意味、用法で使われていないと、なにがと問題にされます。しかし、これはもともと日本語化しているものだし、日本語のなかで意味が変わり、用法が変化するのは自然なことです。いわば、ことばは生きていていう証拠なのです。

日本人が英語をもとにして作ったカタカナ英語は、それが和製であるとして指摘する。英語から日本語に借り入れられたカタカナ英語の中心になるのはカタカナ英語になって元々の英語からずれている語と和製英語である。厳密に言えば、すべてのカタカナ英語は元の語からずれている。その「ずれ」の第一は発音である。英語からカタカナ英語になると必ず発音が日本式に転化してしまう。第二に英語からカタカナ英語になると、その意味が狭まる。まれにだが元の英語より広い意味をもつものもある。第三に、日本語独自の意味や用法をもつようになった語と日本人が勝手に作った和製英語とがある。

1 意味や用法が元の英語からずれたカタカナ英語

- a 元の英語の意味より狭い意味になる語。カタカナ英語の多くは英語の意範囲の一部だけを用いている。
- b 元の英語の意味より広い意味になる語。狭い意味になる語はさきわめて多いが広い意味になる語は非常に少ない。
- c 元の英語の意味が転化したり、誤用されたりして、カタカナ

英語独自の意味が生じた語。

d 元の英語では動詞であるがカタカナ+英語では名詞として使っている語。

2 元の英語を短く切ったり略語にしたりしたカタカナ+英語。英語がカタカナ+英語で発音されると、元の語にない母音が付け加えられ、元の英語より長い語になってしまう。そのため短く切って使うことが多い。

a 元の英語の前半だけを残したもの、すなわち「尻切れ語」。

b 元の英語の後半だけを残したもの、すなわち「首なし語」。

c 元の英語の複数の-(e)sや過去分詞の-edなどを省略したもの。

d 元の英語の頭文字を組み合わせた略語。

3 日本人が英語の単語や造語要素を組み合わせて作ったカタカナ+英語、およびその語の短縮形や略語、いわゆる和製英語。1988年10月6日の朝日新聞に和製英語に関して次のような記事があった。

モトワニさんが例としてあげた和製英語は、スカイパーキング（高層駐車場） アシテナショップ（製作者直営の店） グリーンレポート（農業白書） サンデークリスチャン（うわべだけのクリスチャン） ジェットフルーツ（空輸された輸入果物） キッチンドリッカー（酒好きの主婦） など。英語と違う意味に使っている例も多い。「フェミニスト」は英語では「女権論者」を指すが、日本語では「男性に甘い男性」とか「女性を大切にする男性」というニュアンスなので、とまどうという。また英語の短縮形、省略形もやっかいだ。例えば、「マガコン」「パココン」「エアコン」「ボテコン」「ナマコ

ン」などはそれぞれ「ン」の意味が違うのに、日本人は平気で使っているという。

- a 英語の単語を2つ以上組み合わせて作った語。
- b 英語の単語に英語の接頭辞や接尾辞などを付けて作った語
- c 和製英語の略語また英語の単語の頭文字を組み合わせて作った和製の略語。

4 元の英語から発音のうえで「ずれ」のあるカタカナ英語。

- a 発音がかなり転化しているため、元の英語が何であるか分かりにくい語。
- b 元の英語を綴り字読みするなど、誤った読み方をしたカタカナ英語。
- c 元の英語では同一の発音の語が、カタカナ英語では2つ以上の異なる発音になり、それぞれの意味も異なるものとなった語。
- d 元の英語では異なる発音をする2つ以上の語が、カタカナ英語では同一の発音で使われる場合。

5 英語以外の西洋の言葉から日本語に借り入れられたカタカナ語やその短縮形と英語と誤解するおそれのある語。

- 1) ポルトガル語 カステラ パン フラスコ ボタン
- 2) スペイン語 カナリア プラチナ
- 3) オランダ語 オルゴール コーヒー ゴム ポンプ
- 4) フランス語 アンケート コンクール ポルノ
- 5) ドイツ語 エネルギー ヒステリー ボンベ ワッペン
- 6) イタリア語 カルテット ビニョナーレ ファッション

7) ロシア語 カンパ コンビナート ノルマ

8) ラテン語 ウイルス パピルス ヘルニア ミサ

6 日本人が2つ以上の異なる言語を組み合わせで作った語、またその短縮形や略語、いわゆる和製洋語「混種語」

7 日本人が西洋の言葉を真似て作ったカタカナ語や略語、特に英語または英語以外の西洋の言語をもとに日本で作られた商標や商品名。

a 日本で作られた商標や商品名

b 日本語をローマ字で表記して、それをもとに作った略字や略語

国際化という言葉がよく使われている時代に英語がその象徴になっているようだ。どの品物にも英語が書いてあって、どの外語専門学校も人でこみあっている。英語がもてはやされている時代に、おかしいのはふさわしい英語の教育がなされていないことである。英語はまだ古典語として教えられていて、何年間も英語を勉強しても話せない人が多い。文法を習うことだけに重点を置くからだ。欧米でも新しいものにたいして造語するが日本ほどではない。欧米にたいしての態度と英語の教え方がかわるまで行くカタカナ英語の流は絶えずしていかも。

ROY ANDREW MILLER, 1982, JAPAN'S MODERN MYTH,
JOHN WEATHERHILL, INC.

YAEKO SATO HASEIN, 1984, THE HISTORY OF THE
JAPANESE WRITTEN LANGUAGE, UNIVERSITY OF TOKYO PRESS.

横井忠夫、1973、外来語と外国語、現代ジャーナリズム出版会。

横俣道彦、1982、和製英語を正す、イブニングニュース社。

荒川惣兵衛、1982、日本語となった英語、名著普及会。

加島祥造、小本千之、坂田俊策、1987、カタカナ英語辞典、研究社印刷株式会社。